

第31回 ヤンマー学生懸賞論文・作文募集要領

<テーマ>

“農業”を“食農産業”に発展させる

2020年4月

主 催 ヤンマーアグリ株式会社

後 援 農林水産省
一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構
公益社団法人 大日本農会

第 31 回ヤンマー学生懸賞論文・作文募集の概要について

【テーマ】

“農業”を“食農産業”に発展させる

【趣旨】

私どもヤンマーグループは、日本農業の転換期を迎えていた 1990 年、厳しい中にも 21 世紀への夢と希望を持ち、先駆的な挑戦を試みる元気な農家やその集団が全国各地に誕生しつつあることに気づき、「いま日本の農業がおもしろい～その変化と対応～」を当社のスローガンとして、積極的に未来を語りエールを送ってまいりました。

その一方で、次代を担う若者たちに農業と農村の未来について、大いに議論いただこうと始めたのが「学生懸賞論文・作文募集事業」でした。

日本、そして世界における農業を取り巻く環境は急速に、大きく変化しています。農業が持続可能であり続けるために、今ある変化にどのように対応するかが重要となります。現在 70 数億人の世界人口は、2050 年には限りなく 100 億人に近づいていきます。食料需要が高まり続ける今、地球上にはもう農業に使用できる土地面積が多くは残されていません。新たに耕作地を開拓すれば、それは一方で森林破壊等、別の問題を引き起こすでしょう。あらゆる地域で経済発展を遂げ、人口が都市部に移動し、農業人口が益々減少していく中、少ない農業生産者が、増え続ける食料需要を賄っていかなければなりません。将来に向けて、現在の農業・食料生産の在り方そのものを進化させ、変えていかなければ、持続可能な未来 (A Sustainable Future) はないのではないのでしょうか。

そのような中、私どもヤンマーグループは、これまで追求してきた「生産性」と「資源循環」を今後も継続し、更に高いレベルを目指してまいります。それに加え、今ある変化に対応すべく、「経済性（農業の儲かるかたち、農業や生産物そのものの付加価値を高めること）」の追求にも取り組んでまいります。農業も生産物も、人々の健康を守り、命を育むために欠かせない大切な存在でありながら、第一次産業は利益を生み出しにくい構造となっています。そこで昨年に引き続き、今年度も上記テーマのもと生産から先にある加工、流通などを含めた“食のバリューチェーン”に入り込み、広く“食”に対するソリューションを提供したいとの思いから、生産物の付加価値を高めることで、農業の儲かるかたち、「経済性」を、次代を担う若い皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

本事業も今回で31回目を迎えます。学生の皆様には、日本の、そして世界の農業において「生産性」「資源循環」「経済性」を追求し、“農業”を魅力ある“食農産業”へと発展させる提案を期待しています。これからの「農」に対するそれぞれの提案を、広く自由な観点で論じ、夢と若さあふれる提言を数多くお寄せいただきたいと思います。

○論文の部

上記テーマと趣旨に沿った論文をまとめてください。21世紀農業の確立をめざした“先駆的挑戦”を内容としてください。自然科学、農業経営、農産技術、農芸化学、農業モデル（都会、中山間地、大規模平野、臨海地域）、新規ビジネスモデル、流通、教育、ICTなど、あなたが学習・研究しているさまざまな分野から独自の構想で提言し、その実現の過程、手法等を論理的に述べて下さい。

例えば次のような論点も、今日的切り口として参考にさせていただくようお願いいたします。

＜あなたの独自のテーマ例 又は 内容＞

- 1) 高い生産性を誇る食料生産の実現
- 2) 安全・安心な食料生産と供給
- 3) 多様化する食ニーズへの対応
- 4) 地球環境との調和
- 5) 生産者の経済性追及
- 6) 産地から食卓までを繋ぐ食のバリューチェーン確立
- 7) 作期分散や販路マッチングによる「食料生産の最適化」の提案
- 8) テクノロジーとサービスによるトータルサポートの創造

その他“将来の夢の農業”の創造・提案など、あなたの独自のテーマを設定して、論文にまとめて下さい。

○作文の部

上記テーマと趣旨に沿った作文をまとめて下さい。あなたの感じていること、夢や思いを、これまでの体験やその時の情景を描写しながら作文にまとめて下さい。

【論文の部 応募要領】

1. 応募資格：2020年9月30日現在 で、下記項目の全てに該当する方。

1) 所属	<p>右記のいずれかに在籍する学生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学 ・大学院 ・短期大学 ・農業大学校 ・農業短期大学 ・各種専門学校 <p>※外国への留学生、外国からの留学生も可。(国籍不問)</p>
2) 年齢	<p>30歳以下</p> <p>※但し、外国からの留学生(日本国籍でない方)は35歳以下</p>
3) 前提条件	<p>(1) 作品は本人のもので、かつ、未発表のものに限る。</p> <p>※同一作品を他へ発表(応募)予定している場合の応募は不可。</p> <p>(2) グループによる共同執筆可。</p> <p>(3) 過去、論文の部入賞者の応募は不可。</p> <p>(4) 過去、作文の部入賞者の応募は可。</p>

2. 応募規定

1) 言語	和文(日本語)
2) 筆記具	パソコンの文書作成ソフト(Microsoft Wordなど)を使用
3) 用紙規格	A4判の縦置き
4) 書式	横書き
5) 文字数、 字体サイズ	<p>本文部分の総字数で、8,000字以上、12,000字以内とする。</p> <p>他部分(表紙、要旨、目次、添付資料、データ・図表、参考文献等)の文字数は、総字数に含まない。</p> <hr/> <p>原則として、『横40文字 × 縦40行』のレイアウトとし、用紙1枚あたり1,600字以内とする。</p> <hr/> <p>明朝体 または ゴシック体 で 10.5~12ポイント</p>

6) 提出書類	(1) 応募申込	弊社ホームページの応募申し込みフォームに、必要事項を入力する。	
	(2) 要旨	A4判 縦置き 1枚 に、1,200字以内で横書き作成すること。(図表の使用は不可) ※冒頭に題名(作品タイトル)を明記すること。	
		要旨のファイル名称は「論文要旨_氏名」とする。	
	(3) 作品原稿	ファイル名称と形態	以下①～④を1つの文書ファイルにまとめ、名称は「論文_氏名」とする。 ※図・表・写真等も本文ファイル内へ貼り付け別ファイルにしない。
		① 目次	必ず目次をつけること。
		② 本文	本文冒頭に題名(論文タイトル)を記載する。 ※氏名・学校名は記載しないこと。
			ページ数を打つこと。 (ページは文字数に含まない)
		③ 図表・写真等	原則として、本文中の適切な箇所へ挿入すること。 ※タイトルの記入位置は、図・写真の場合はその直下に、表の場合はその直上とする。また原則として挿入の位置は、それらがレポート内の文章に最初に登場したページもしくはその次のページに入れること。
			図・表の見やすさは、評価のポイントになるため、画質や精細に注意すること。 ※小さな文字・数字は読めるように注意し、必要な場合は、カラーで提出すること。 (凡例データの多い棒グラフなど)
	④ 参考文献	DVD、ビデオ等の動画資料は不可とする。 参考文献のある場合は、「題名、著者名、出版社名、刊行年、参考頁」を明記した一覧を末尾に添付すること。	
7) 提出方法	弊社ホームページからの応募に限る ※紙での郵送は不可	上記 提出書類(2)～(3)各ファイルを、応募申し込みサイトにアップロードすること。	

【作文の部 応募要領】

1. 応募資格：2020年9月30日現在 で、下記項目の全てに該当する方。

1) 所属	右記のいずれかに在籍する学生 <ul style="list-style-type: none"> ・農業大学校 ・農業短期大学 ※外国への留学生、外国からの留学生も可。(国籍不問)
2) 年齢	25歳以下
3) 前提条件	(1) 作品は本人のもので、かつ、未発表のものに限る。 ※同一作品を他へ発表(応募)予定している場合の応募は不可。 (2) 過去、作文の部入賞者の応募は不可。 (3) 過去、論文の部入賞者の応募は可。

2. 応募規定

1) 言語	和文(日本語)	
2) 筆記具	パソコンの文書作成ソフト(Microsoft Word など)を使用	
3) 用紙規格	A4判の縦置き	
4) 書式	横書き	
5) 文字数、 字体サイズ	総字数で、2,800字以上、3,200字以内とする。	
	原則として、『横40文字 × 縦40行』のレイアウトとし、用紙1枚あたり1,600字以内とする。	
	明朝体 または ゴシック体 で 10.5~12ポイント	
6) 提出書類	(1) 応募申込	弊社ホームページの応募申し込みフォームに、必要事項を入力する。
	(2) 作品原稿 (作文本文)	本文冒頭に題名(作文タイトル)を記載する。 ※氏名・学校名は記載しないこと。
		ページ数を打つこと。 (ページは文字数に含まない) 作文本文のファイル名称は「作文_氏名」とする。
7) 提出方法	弊社ホームページからの応募に限る ※紙での郵送は不可	上記(2)作品原稿を応募申し込みサイトにアップロードすること。

【表彰・賞金】

■ 論文の部

賞	受賞数	賞金	贈呈品
大賞	1 編	100 万円	賞状、記念品
特別優秀賞	2 編	30 万円	賞状、記念品
優秀賞	10 編	10 万円	賞状、記念品

■ 作文の部

賞	受賞数	賞金	贈呈品
金賞	1 編	30 万円	賞状、記念品
銀賞	2 編	10 万円	賞状、記念品
銅賞	10 編	5 万円	賞状、記念品
奨励賞	15 編		賞状、記念品

※なお、入賞されなかった場合も、応募資格・応募規定に合致した方には、応募記念品を贈呈いたします。

【応募時期・発表】

応募期間	2020年6月1日(月)～9月30日(水) 23:59までにエントリー	
結果発表	【入選者決定(社内審査会)】 2020年12月9日(水) 予定	社内審査会で決定後、12月11日(金)までに入選者本人へ通知予定
	【入選発表会(大阪工業大学梅田キャンパス常翔ホール)】 2021年1月29日(金) 予定	入選者表彰(各賞決定、表彰) ※入選者は入選発表会に出席頂きます
	【入選結果報告・落選結果通知】 2021年2月中旬を予定	弊社ホームページに結果(入選者一覧)を掲載 ※落選結果通知は、本人への応募記念品の発送をもって替えさせていただきます

○論文の部 入選者の方へ

入選発表会会場にて、論文の内容をまとめたパネルを展示いたします。

入選通知を受けた方は次の要領にて、パネル用資料を作成願います。

詳細は入選者本人へ改めてご連絡いたします。

1) 資料送付期間	入選通知後～2021年1月15日(金) ※ メールにて事務局まで送付してください。
2) 対象となる資料	論文要旨、論文内で使用したデータ(図、表、グラフ、写真等) ※ 論文内で使用していないデータは対象となりません。

3) パネル用資料 作成要領	Microsoft Word の A4 縦、横書きで 2 ページとします。 1 ページ目に論文タイトル・学校名・氏名・論文要旨を記載。 2 ページ目に論文内で使用した図表を貼付けしてください。 ※作成いただいた資料を事務局にて A1 サイズのパネルに加工 いたします。
4) 文字の大きさ	12～16 ポイント

【審査方法】

事務局審査	事務局による様式審査（応募資格・規定による審査）等
社内審査 (一次・二次)	弊社内選考委員による内容審査 ・ 入選作品（論文・作文各 13 編）の選出 ・ 作文の部 奨励賞の決定 ※発表は入選発表会の開催後
最終審査	下記最終審査委員による審査 ・ 入選発表会の同日に、各賞の決定 ※論文の部については、最終審査委員による簡単なインタビューを実施

■ 最終審査委員（五十音順、敬称略）

➤ 岩田 三代（いわた みよ）氏 [専門/食・くらし]

愛媛大学法文学部卒業。日本経済新聞社に入社。婦人家庭部記者、同部編集委員兼次長、編集局生活情報部長、論説委員兼生活情報部編集委員として、女性労働問題、家族問題、消費者問題など広く取材。2015年4月退社後、フリージャーナリスト。現在、実践女子大学非常勤講師、国民生活センター監事。政府委員として、食料・農業・農村基本問題調査会委員、国民生活審議会委員などを務めた。主な著書に『伝統食の未来』（ドメス出版、編著）などがある。

➤ 大杉 立（おおすぎ りゅう）氏 [専門/農学]

東京大学農学部卒業、農学博士。農林水産技術会議事務局研究調査官、農業生物資源研究所光合成研究室長、農林水産技術会議事務局研究開発官を経て、2001年より2016年まで東京大学大学院農学生命科学研究科教授。同大学院農学生命科学研究科特任教授を経て、現在東京農業大学客員教授および八ヶ岳中央農業実践大学校副校長。日本学術会議会員、(一社)日本農学会副会長、日本農業賞中央審査委員長。これまでに、日本作物学会賞などを受賞。日本作物学会会長、総合科学技術会議革新的技術推進アドバイザーなどを務める。主な著書に『作物学辞典』（朝倉書店、共著）、『作物生産生理学の基礎』（農山漁村文化協会、共著）などがある。

➤ 近藤 直（こんどう なおし）氏 [専門/農業工学]

京都大学大学院農学研究科修士課程修了（農業工学専攻）、農学博士。岡山大学助手、助教授、愛媛大学教授などを経て、2007年より京都大学大学院農学研究科教授。2017年より農業食料工学会会長。これまでに、アメリカ農業工学会功績賞、農業機械学会賞学術賞、同学会森技術賞、

日本生物環境調節学会賞（学術賞）、日本機械学会ロボメカ部門技術業績賞、農林水産省農業技術功労者表彰、日本農業工学会賞、日本農学賞などを受賞。主な著書に『農業ロボット（Ⅰ）（Ⅱ）』（コロナ社）、『生物生産工学概論－これからの農業を支える工学技術－』（朝倉書店）、『Physical and Biological Properties of Agricultural Products』（京都大学出版、いずれも共著）などがある。

➤ 佐藤 年緒（さとう としお）氏 [専門/環境・科学技術]

東京工業大学工学部社会工学科卒業。時事通信社の記者、編集委員として地方行政や科学技術、地球環境や水問題を報道。2003年退社後、国立研究開発法人・科学技術振興機構発行の科学教育誌『Science Window』編集長などを経て、現在、環境・科学ジャーナリスト、日本科学技術ジャーナリスト会議会長。著書に『森、里、川、海をつなぐ自然再生』（中央法規）、『つながるいのち－生物多様性からのメッセージ』（山と溪谷社、いずれも共著）などがある。

➤ 生源寺 眞一（しょうげんじ しんいち）氏 [専門/農業経済学]

東京大学農学部卒業。農林水産省農事試験場研究員・同北海道農業試験場研究員、東京大学農学部助教授・同教授、名古屋大学農学部教授を経て、2017年4月から福島大学教授。このほか、樹恩ネットワーク会長、地域農政未来塾塾長、中山間地域フォーラム会長など。これまでに東京大学農学部長、日本農業経済学会会長、日本学会会議会員も務める。近年の著書に『日本農業の真実』（筑摩書房）、『新版：農業がわかると、社会のしくみが見えてくる』（家の光協会）、『農業と人間』（岩波書店）、『「いただきます」を考える』（少年写真新聞社）などがある。

【応募先アドレス】

ホームページ <https://www.yanmar.com/jp/agri/agrilife/prize/> よりご応募ください。

【問い合わせ先】

フリーダイヤル 0120-376-530（月～金 10:00～17:00）

e-mail ronbun@yanmar.com

事務局 〒530-0014 大阪市北区鶴野町1-9 梅田ゲートタワー
ヤンマーアグリ株式会社 人事総務部内
学生懸賞論文・作文募集事務局

ホームページ <https://www.yanmar.com/jp/agri/agrilife/prize/> をご覧ください。
ご参考として 第28回～第30回 の入賞作品集を掲載しております。

【その他】

- 応募作品は返却いたしません。（作品の所有権は主催者に帰属いたします）
- 応募作品の著作権を含むすべての著作権利は、主催者に譲渡継承されます。
- 応募作品に学校の研究内容等を反映する場合、予め指導教官の了承を得たものに限りします。
- 入賞者の権利の譲渡は認めません。
- 入選発表会参加にあたり、肖像権は主催者に帰属いたします。
- 応募にあたり記入頂いた個人情報、審査結果通知に付随する事項を行うために利用します。本目的以外で利用する場合は、必ず本人の同意を得たものに限りします。

○入賞者の学校名・学部・学年・氏名は公表します。

【主催・後援】

■ 主催：ヤンマーアグリ株式会社

■ 後援：

➤ 農林水産省

➤ 一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構

農山漁村の活性化、国土の均衡ある発展及び自然と調和のとれた豊かであるおいのある社会の実現を目的に、都市と農山漁村の交流促進と農山漁村地域の活性化に関する調査研究、農山漁村の情報の収集・提供、農林漁業体験施設及び農林漁業体験民宿業の健全な育成並びに体験農林漁業の普及等を行っている。（2001年、農林漁業体験協会、ふるさと情報センター及び21世紀村づくり塾の3財団法人の合併により設立。2013年4月より一般財団法人に移行。）

➤ 公益社団法人 大日本農会

明治14年に設立されたわが国で最も歴史ある全国的な農業団体。設立当初から皇族を総裁としていただいております。現在は、七代目として秋篠宮皇嗣殿下を総裁に推戴している。農業の発展及び農村の振興を図ることを目的に、農事功績者表彰事業、農業・農村に関する調査研究事業、勸農奨学、会誌「農業」の刊行等を行っている。2011年7月1日、内閣府より「公益社団法人」に認定。